

がん細胞はブレーキがきかない

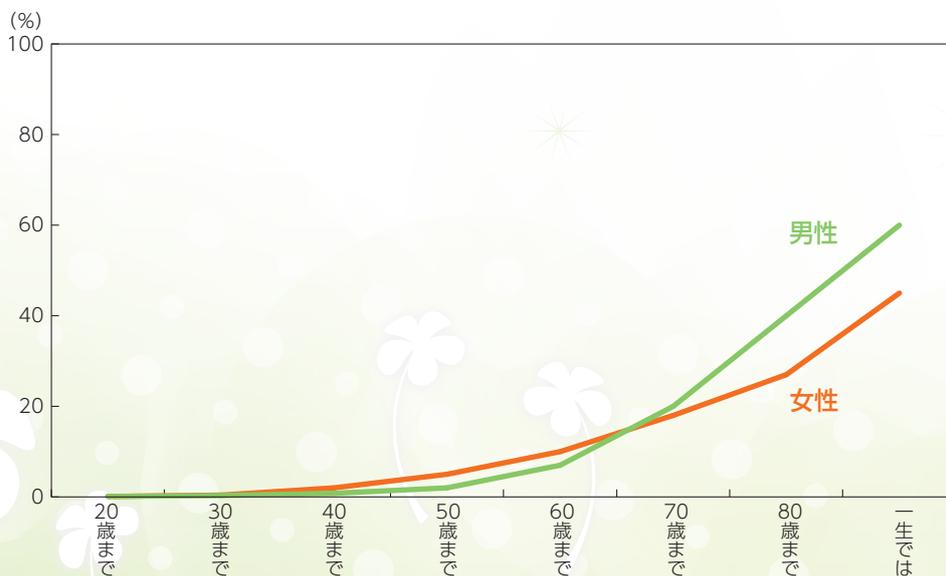


がん細胞は、遺伝子に傷がついて分裂が止まらなくなった細胞です。がん細胞が増えて、体の正常な機能の邪魔をするようになると病気としてのがんになります。病気が進むと、体の他の場所に広がって、命を失うこともあります。

がんは2人に1人なる病気

日本人の2人に1人がかかる病気で、誰もがかかる可能性があります。また、年齢が高くなるほどがんにかかる可能性が高くなります。

15歳の日本人が『がん』になる確率

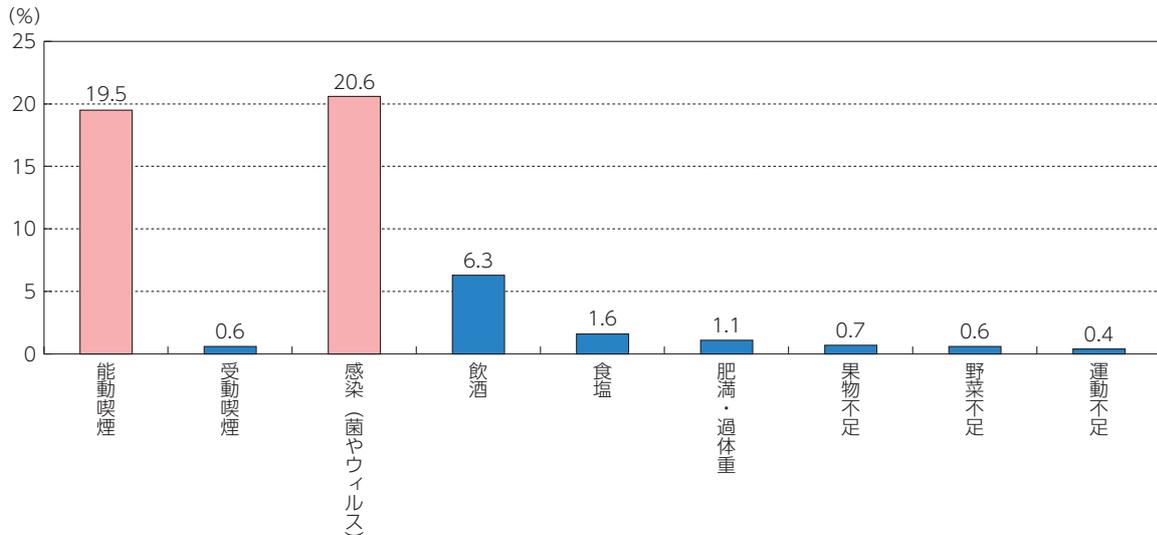


一生では
男性の60%
女性の45%
⇒ 2人に1人

出典：国立がん研究センターがん対策情報センター

がんの6割は普段の生活と関係している

がん発生に占める割合



出典：国立がん研究センターがん予防・検診研究センター（2011年）

がんの発生原因の6割は普段の生活と関係しています。単一の原因としてはたばこが最大です。

日本人の場合、菌・ウイルスの感染もがんの主な原因になります。がんを引き起こす菌・ウイルスとして、胃がんのヘリコバクターピロリ菌、肝臓がんの肝炎ウイルス、子宮頸がんのヒトパピローマウイルスが知られています。ただし、がんという病気そのものが人から人に感染するわけではありません。

遺伝するがんもありますが、全体の5%程度といわれています。



ひとくちメモ

大人のがんと違い、白血病や脳腫瘍など小児に多いがんは、原因がわかっていないものが多いです。しかし、小児がんは、治療法の進歩で治る確率が高くなってきました。

生活習慣や感染症予防などでがんのリスクが下がる

40歳、身長170cmの男性が10年間でがんにかかる確率



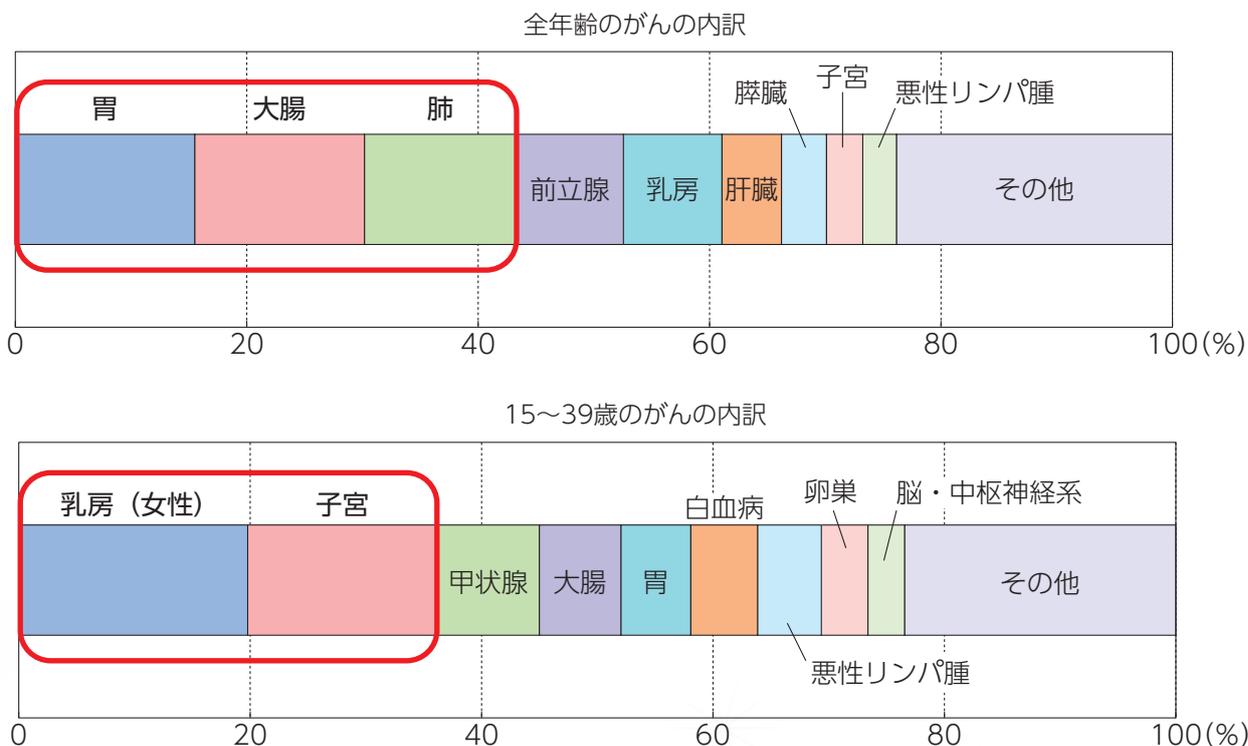
出典：国立がん研究センターがん予防・検診研究センター

22

私たちと『がん』

前の節では、がんは高齢になるほどかかりやすく、生活習慣と関連が強いことがわかりました。では、私たちはどのようながんに気をつければいいのでしょうか。

若い世代のがんとしては、乳がんと子宮がんが多い



出典：国立がん研究センターがん対策情報センター

日本人の3大がんは、胃がん、大腸がん、肺がんです。これらのがんは、食事（減塩）、運動、禁煙などの生活習慣である程度予防が可能です。一方で、15～39歳のがんでは、女性の乳がんと子宮がんが約4割を占めています。乳がんと子宮頸がんは、がん検診で死亡率を減らすことができます。その際、検診に行きやすくするなどパートナーの配慮も大切です。

がんを早期発見する方法＝がん検診

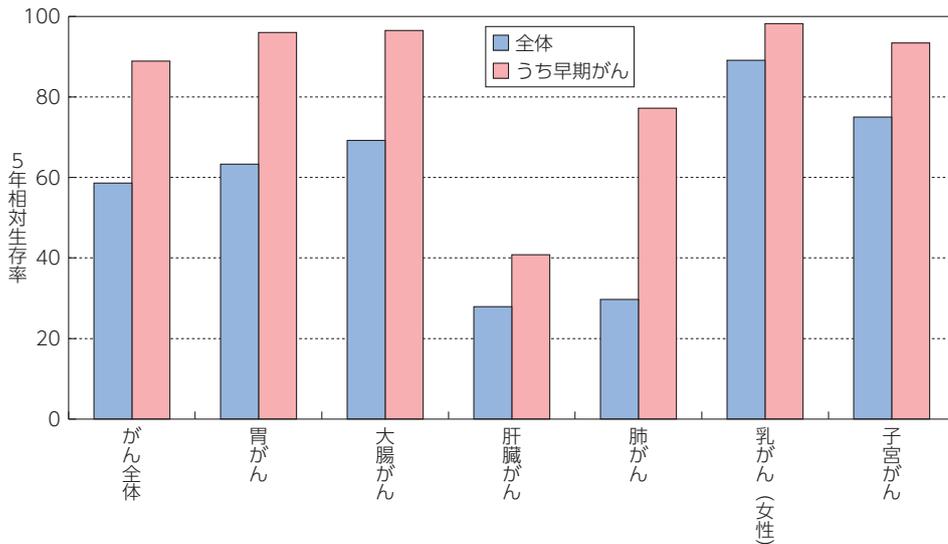
がん細胞は健康な人の体の中にもできており、知らない間にどんどん増えていることがあります。そこで「がん検診」が大切となります。もしがんが見つかって早期であればあるほど治せる可能性が高いのです。

医療技術は日進月歩であり、近い将来様々がんを体に負担が少なく、低コストで検査できるようになることが期待されています。

がんの種類	すすめられている検診の主な内容	すすめられる人・時期
乳がん	マンモグラフィー（女性の胸のレントゲン）	40歳以上女性・2年に1回
子宮頸がん	子宮の細胞をとって調べる	20歳以上女性・2年に1回

40歳以上の男女では胃がん検診、大腸がん検診、肺がん検診もすすめられています。

がん全体では早期のがんは9割治る



出典：国立がん研究センターがん対策情報センター

がんの約6割は治ると言われています。しかも、進行しないうち（早期）に見つかったがんは9割治ることがわかっています。

※「5年相対生存率」とは、あるがんと診断された場合に、治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標です。

もしがんにかかったら

いろいろな治療方法があります。手術、放射線療法、薬物療法などです。最近では、治療効果をよりあげるために、複数の治療法を組み合わせることも多くなっています。

(例：薬物療法でがんを小さくしてから手術)

がんと言ってもいろいろ。自分や家族にとってどの治療がいいか、主治医や医療関係者とよく話し合みましょう。

国立がん研究センターがん対策情報センターが運営するホームページ「がん情報サービス」では、がんについて信頼できる情報をわかりやすく紹介しています。

がん患者を取り巻く社会の理解と支援が必要です。

自分が住んでいる場所でがんについての情報を集めることから始めてみよう。

- ・がんの予防法の信頼できる情報は？（国立がん研究センターがん対策情報センターなど）
- ・禁煙外来はどこにある？
- ・がん検診はどこで受けられる？
- ・がんの専門病院はどこ？（がん診療連携拠点病院など）
- ・がん患者の情報交換の場所は？（患者団体、患者サロンなど）